

令和5年度 学校教育自己診断の結果と分析

大阪府立りんくう翔南高等学校

1 総評

学校の主たる活動である授業に注視すると、生徒は問2「学校の授業はわかりやすい」76.9%、問3「自分は授業に集中して取り組んでいる」84.9%でそれぞれ高評価している一方、教員は「生徒はあなたの授業を理解している」「あなたの授業中、生徒は集中している」といったことに対する肯定的な認識がそれぞれ63.9%、44.4%と厳しい状況がある。生徒のニーズを正しくとらえ、生徒にとって満足度が高い授業、わかりやすい授業や興味関心を持つ授業ができてくると、生徒と教員の意識の乖離が小さくなると考える。

2 アンケート結果の分析

【生徒対象】

- ・問1「学校に行くのが楽しい」78.1%、問19「学校は、生徒1人1台端末を有効に活用している」56.9%については、8%を超える数値の下降があった。
- ・問2「学校の授業は楽わかりやすい」76.9%、問11「りんくう翔南高校の生徒会活動は活発である」65.0%、問14「地震・火災などの災害の時の避難経路を、具体的に教えてもらっている」72.2%については5%を超える数値の上昇があった。昨年度はコロナ禍の制限がなくなったことで通常に活動ができることに好意的な評価であったが今年度は慣れも出てきていると思われる。地域連携や異校種交流など、校外との交流については44.2%と低迷している。また、1人1台端末の活用については8.7%下降し、56.9%となっており、生徒のニーズに応えることができていない。単に、黒板の代わりや調べ学習のツールとしてだけでなく、個に応じた指導のためのツールとして活用する必要がある。

【保護者対象】

- 近々の6年間で、回答率が30%を上回ることが無かったが、今年度は36.8%に増加したが多くの項目では変化は微小であった。
- 変化があった項目として問12「りんくう翔南高校の部活動は活発であると思う」が7.3%下降し41.9%に、問14「地震・火災などの災害の時の経路の避難経路を、具体的に教えてもらっているようだ」が8.4%下降し58.6%となっている。
- 問12 今年度の本校のクラブ加入率は27.2%にとどまっており、更なるクラブ活性化が必要である。一方、私学の無償化、少子化などの影響を受け入学してくる生徒の多様化が進む中、教科指導以外の生徒支援や就職支援業務に割かれる時間が増加しているのは明らかで、働き方改革の推進も求められる中で許される範囲内での改善に努める。
- 問14については、調査を行った時期に北陸地方で大きな地震があり、保護者の災害に対する意識が高まったことが大きな要因と考える。本校としては、これまでも避難訓練など防災教育に力を入れてきたが、義務教育とは異なり複数の市町から通学する高等学校として、更に安否確認システムの構築と試行を進める。